ISSN 1340-2285

自然誌だより 秋

Natural history

三重自然誌の会情報誌 98号　　2013年 12月

オオサンショウウオの体色や模様の多様性を表現したい！

文化財保護に関する事務に携わるようになるまでは，オオサンショウウオのことは，ほとんど知りませんでした．多くの人にとってオオサンショウウオは『水族館や博物館にいる大きなサンショウウオ』という程度の存在ではないでしょうか．オオサンショウウオの体表には，大小さまざまな黒斑があり，この黒斑の位置や数は個体によって異なっており，個体識別の際に利用されます．

昨年末頃から，オオサンショウウオの体色や模様の多様性を表現した啓発グッズを，優しい印象を与える自然素材を使ってつくれないものか思案していました．間伐材や麦わらなどを候補にしましたが，見た目がオオサンショウウオらしくありません．最後に到達したのが竹の皮でした．おにぎりを包むのに使われるから調達も容易だと思い，複数の店を廻ったのですが，弁当を包む素材は全てプラスチック製品でした．仕方なくタケノコが出る春を待ちました．尾鷲市在住の山下学さんからタケノコをいただき，これまでは捨てていた皮を丁寧に広げて乾燥させました．

オオサンショウウオの姿を描き型紙として，しおりをつくることにしました．型紙に沿って竹の皮を切り抜くと，想像通りに多様な体色や模様のオオサンショウウオを表現することができました．しおりとして使うのでアイロンをかけて竹の皮を伸ばしましたが，アイロンをかけないゆがみのある皮のままの方が，より実物のオオサンショウウオを表現できると思います．

〈中野環：度会町大野木 1711－1〉

この秋出会った二種の珍鳥－赤色型ホトトギスとオオグンカンドリ

今　堀　聖　史

１　赤色型ホトトギス

頭部から尾羽まで体上面が赤褐色のホトトギスに遭遇しました．その状況と鳥の特徴を紹介します．

９月の探鳥は渡ってきたシギ類やチドリ類に目が向き，ホトトギスへの期待は全くありませんでした．松阪市曽原町の海岸堤防沿いに池と排水ポンプ場があり，周辺は農地が広がっています．ポンプ場近くの水路沿いにある若い桜の並木（約20本）は鳥たちがよく利用しています．

９月９日午後４時すぎ，桜の木から褐色の鳥が飛び出し，近くの電柱の支線に止まりました．翼の形と動きから小型の猛禽類に思えたので大慌てで撮影しました．電線から下の草地に降下し，短時間ホバリングして昆虫らしい獲物を捕って飛び去る１分間ほど，車内からの観察と撮影でした．電線に止まったシルエットはホトトギスやカッコウの姿，モニターで確認すると赤みの強い褐色でやや太い黒色の横縞があり，これまで見たことのない体色でした．携帯していた図鑑には『ホトトギスとツツドリの雌には稀に赤色型がある．頭部，体上面，胸は赤褐色』と記されていました．友人の情報によると，９月８日に香良洲や五主でも目撃されていたそうです．また，９月下旬には宮川堤防の桜並木にツツドリが滞在し，ホトトギスやツツドリが渡りの時期は海岸周辺や桜の名所にも現れることがわかって観察の視点を一つ教わりました．

ホトトギスは鳴声が身近で，詩歌や絵画などによく登場し，托卵という生態も有名です．初夏に渡ってきてウグイスなどが繁殖する場所を巡回しますが，警戒心が強く個体数が少ないので姿を観察するのが難しい鳥です．ホトトギスの仲間の体色は，頭部から胸にかけてと体上面が青灰色，腹は白く黒い横縞があり，尾は黒褐色で白い斑点があります．赤色型ホトトギスをネットで検索すると多くの写真があり，稀な存在ではなさそうです．個体変異ではない赤色型という雌には何か理由があるように感じます．

写真１　赤色型ホトトギス．2013年９月９日，松阪市曽原町

２　オオグンカンドリが飛来

10月８日午前11時ころ，大淀海岸でグンカンドリが飛んでいるのを偶然に目撃，写真も撮れました．この日は台風24号が九州西方を北上中で，沿岸に何か来ていないかと香良洲から海岸に沿って南下していました．大淀海岸の堤防に沿って徐行していたとき，松並木越しに大きさがアオサギほどの鳥が見え，障害物がなくなると黒く長い翼と燕尾から『グンカンドリだ！』と一瞬ひらめきました．視界のよい堤防へ駆け上り十数枚の写真を撮ることができました．一度旋回し，北東へ飛び去るまで数分間の全く予期しないラッキーな出会いでした．犬も歩けば・・・です！

写真２　オオグンカンドリ．2013年10月８日，明和町大淀海岸

グンカンドリは熱帯・亜熱帯に分布する海洋性の鳥で，日本に飛来するのはほとんど若鳥だそうです．オオグンカンドリとコグンカンドリの２種があり，体下面の白色帯の

形状で同定します．実際には個体差もあって難しいですが，今回の個体はオオグンカンドリだと思われます．写真を拡大すると嘴から魚が半分垂れ下がり，飛びながら飲み込むようすが写っていました．昨年もこの時期に神島や伊良湖岬へ４～５羽現れ，数日見られたそうです．また，２年前に紀州にコグンカンドリが飛来し暫く滞在したそうで，熊野の中井節二さんが撮影されています．

〈いまほり　きよふみ：津市久居小野辺町1454-30〉

初冬のサプライズ－カンムリカイツブリ大群（数百羽）が滞在

今　堀　聖　史

カンムリカイツブリは大型のカイツブリで体長は56cmもあります(普通のカイツブリは26cm)．日本では河口や漁港の周辺や池で越冬する冬鳥で，１羽から数羽で過ごします．晩秋には数十羽の群で伊勢湾の沿岸を南下していきますが，今年は大群になっていて，私が観察した11月14日，安濃川河口の沖では数十羽の群がいくつも見られました．11月20日と22日の香良洲海岸には網をあげる漁船の周辺に200羽以上と思われるカンムリカイツブリが見られました．また，ハジロカイツブリ十数羽の群がいくつも見られました．23日には雲出川河口の沖から北へ300ｍほど帯状に群を作っていました．群の個体数は，写真１シーンの概数とシーン数から推定して500羽以上だろうと思います．珍しい鳥ではないですが，こんな大群を見るのは初めてです．そして，地元の先輩から聞いた『今年はカタクチイワシが異常発生しとるそうや』の言葉が大群の滞在と関係することを直感しました．餌の有無が鳥にとって最も大切な要素でしょう．大群がいつ南下していなくなるか興味があります．

写真１　カンムリカイツブリ．2013年11月22日，津市香良洲海岸

改めて気付いたことは，魚を食べる鳥たちが伊勢湾沿岸に沿って南下していくコースには昔からの漁港と産物があることです．私が目にした数百のカンムリカイツブリやハジロカイツブリは今年のような条件がなければ見られませんが，毎年数十羽の群で人目につくこともなく行き来していることに思いを馳せることができました．

写真２　カンムリカイツブリの群．2013年11月22日，津市香良洲海岸

〈いまほり　きよふみ：津市久居小野辺町1454-30〉

南伊勢町のモリアオガエルの産卵記録

清　水　善　吉

モリアオガエルは樹上に産卵することで有名な蛙で，三重県では北・中勢や伊賀地域で多くの繁殖地が知られています．また，南伊勢町でのモリアオガエルの産卵については，中優さんが本誌84号で報告していますが，それまでは松阪以南では大台町桧原の池ノ谷が唯一でした．池ノ谷の繁殖地は大規模で，2012年６月の調査では約400卵塊を数えることができました．また，規模とともに，モリアオガエルの南限の生息地としても重要で，2003年に三重県の天然記念物に指定されています．

志摩半島についてみると，冨田靖男さんが博物館の研究報告のなかで伊勢市朝熊町の金剛証寺や鳥羽市青峰山正福寺の池を繁殖地としてあげていますが，冨田さんの調査時（1976年）にはすでに産卵はみられなかったようです．現状では，南伊勢町が志摩半島唯一の繁殖地で，中さんは10卵塊程度が産卵されていたと報告しています．この産卵数は，志摩半島唯一の産卵地にしては少々寂しい気がしましたので，今年の繁殖期に調査を行いましたので報告します．

2013年６月４日，県道169号線（通称サニーロード）を南下し，鍛冶屋トンネルを抜けて南伊勢町に入るとすぐに道路脇からモリアオガエルの鳴き声が聞こえてきました．車を道路脇に止めて耳をすませると，声は山裾の側溝から聞こえてきます．側溝のなかをのぞいてみると，モリアオガエルの雌雄を多数確認することができました．この側溝は，延長約120m，底面が１m，高さ１～1.5mほどの規模で，山裾にありますので，中には土砂や落ち葉，枝などが落ち込んでいます．また，中程で土砂が堆積しているため水はけが悪く，上流側の一部が10㎝ほどの水たまりになっています（写真１）．この日はモリアオガエルの卵塊は２個だけでしたが，たくさんの雌雄がみられたことから，産卵はこれからが本番と思われました．

写真１　上流側からみたサニーロード脇の側溝

さい先のよいスタートに気をよくして，サニーロードをさらに南下し，途中で右折して県道719号線に入り，しばらく走ると中さんの報告にあった池に着きました．池は南北に延びる三日月状の三角形をしており，西辺は県道で約45m，北辺は約25m，水深は深い所でも30㎝ほどです（写真２）．谷からの土砂の流入により池頭から３分の１程が陸地化しており，樹高10mあまりのハンノキが生育しています．近くの田んぼで作業をしていた男性によると，この池は「オギリマ池」といい本来はもっと大きく深かったそうですが，年々縮小しているそうです．モリアオガエルが産卵をしていることもご存じで，サギ（たぶんアオサギ）がオタマジャクシを食べにくるとも言ってみえました．モリアオガエルの卵塊は25個を数えることができました．

写真２　北側からみたオギリマ池

さて，その後の状況確認のために６月24日に再度同じ場所を調べました．側溝では20卵塊が確認でき，水中にはたくさんのオタマジャクシが泳いでいました．オギリマ池では２卵塊，行ったときにはカルガモが泳いでいました．カルガモはオタマジャクシを食べないと思いますが，地元の方にお聞きしたようにアオサギに食べられたのかオタマジャクシはあまり見かけませんでした．オギリマ池に流れ込んでいる谷を遡上すると屋敷跡があり，その山際の一部が浅い水たまりになっていました．山裾にそって東西に約10m，幅はもっとも広いところで２mほどの三日月型をしています（写真３）．水深は

写真３　西側からみた三日月池

深いところでも25cmほどで，山からのしみ出し水によって供給されています．池の上部に木が被さっており，そこにもモリアオガエルの卵塊が10個あり，水中ではオタマジャクシも確認できました．

今年の調査は，上にあげた場所以外にも南伊勢町を中心に，志摩市の一部などでも行いましたが，モリアオガエルの生息・産卵を確認できたのはこの南伊勢町伊勢路地内の２地点３か所だけで，あわせて60個の卵塊でした．調査した中には，これらの場所よりも産卵に適していると思える池もいくつかありましたが，それはモリアオガエルに聞いてみないとわかりません．また，気がかりなのは，産卵を確認した３か所の湿地がいずれも不安定に状態にあることです．側溝は，溝掃除をされたら産卵場として機能しなくなりますので，その必要が生じた際にはぜひ配慮をお願いしたいです．また，三日月池は日照りが続けば干上がりそうですし，オギリマ池は比較的安定していますが，長期的には陸地化が進むと思われます．これらの産卵地は，志摩半島唯一というだけではなく，モリアオガエルの生息南限地にもなる貴重な場所ですので，地域の自然遺産として町の天然記念物等に指定することにより積極的に守っていってほしいと思います．

参考文献

中　優．2010．南伊勢町のモリアオガエル．自然誌だより，(84)，3．
冨田靖男．1980．三重県の爬虫・両生類相．三重県立博物館研究報告自然科学，(2)，1-67．

〈しみず　ぜんきち：松阪市日丘町1386-17〉

とり逃したガガンボの記録

篠　木　善　重

2013年の夏，一泊２日で大台町大杉の粟谷小屋周辺の生物調査に出かけた．標高1,000m前後のあたりだ．筆者は，もっぱら双翅目昆虫を調べていたところ，林道際に群生するシダ（種名は不明）の葉上で休む1頭のガガンボを見つけた．クシヒゲガガンボ（♂の触角が櫛状となる）の仲間だと気づき，なにせこの仲間は美麗種ぞろいで気品すら感じられるので，何枚も写真を撮影した．しかる後，採集しようと直径40cmの捕虫網を振った．ところが，網の中から取り出そうと探すも見つからない．網の中に入っていないのだ．あわててシダをかき分けて探すも見つけられない．体長は20mm近くある，見つからないはずはないと周辺を10分間ほど捜索しても，とうとう見つけられなかった．

後日調べたところ，本州・四国・九州に分布するイシハラクシヒゲガガンボ *Ctenophora ishiharai* Alexander（ガガンボ科）と判明した．本種の♂は後脚脛節が膨らまないので，近似のスネブトクシヒゲガガンボ *Ctenophora nohirae* Matsumura と区別しやすい．三重県の既知の記録は見つけられなかったから，標本がなく，この写真のみが証拠となる記録がなんと三重県初記録となるので報告する．

写真１　イシハラクシヒゲガガンボ♀　2013.7.29

記　録

大台町大杉，29-Ⅶ．2013，1♀（写真撮影）．

文　献

Takahashi, M. (1960). New species of Japanese *Ctenophorini* with the notes and key to already known species (Diptera, Tipulidae), Part 2. Japanese species of *Ctenophora* (*Phoroctenia*) and *Ctenophora* (*Ctenophora*). Mushi. 34(4):101-115.
平嶋義宏ほか．2008．新訂原色昆虫大図鑑第Ⅲ巻．北隆館，東京．

〈しのぎ　よししげ：津市河芸町中別保2230-1〉

加太川でオオサンショウウオ発見される

清　水　善　吉

オオサンショウウオといえば，三重県では伊賀地域を流れる木津川水系が有名ですが，伊勢湾側の各河川でも散発的に見つかっています．しかしながら，これらの河川がオオサンショウウオの本来の生息地であるのかというと，悩ましい問題です．オオサンショウウオは，1952年に国の特別天然記念物に指定され，捕獲等はできなくなりましたが，かつては（ひょっとしたら今でも）その大きさゆえに食用や見せ物として一部の人たちに人気があり，多くの個体が捕獲・移動させられたようです．その中には逃亡したり，放たれたりして本来の生息地ではない場所に居着いた個体もあったようで，生息するはずのない東北・北海道からも記録があります．

このようなケースは判断しやすいのですが，三重県の場合は，伊賀地域には多く生息していますし，隣の愛知県や岐阜県では伊勢湾に流入する河川でも自然分布していますので，どこで発見されても持ち込まれた個体だと言い切れない事情があります．残念ながら，オオサンショウウオは遺伝的な地理的変異がほとんどみられず，DNA 解析をしても産地を特定することはできません．現状では，発見地点の上下流を調査して他のオオサンショウウオが生息していないかを確認し，記録を残していくしか方法がありません．昨年（2012年）の夏にも鈴鹿川水系加太川でオオサンショウウオが発見され，調査を行ったので報告しておきます．

写真１　オオサンショウウオ発見地点のようす（亀山市加太中在家加太川）

発見地点は，亀山市加太中在家地内の加太川で，中在家橋の30mほど上流の淵です(写真１)．その淵頭の右岸側に一部が砂に埋まったコンクリートのかたまりがあり（写真２)，その下にできた空洞に隠れていました（写真３)．最初に発見したのは，三重県の河川工事にともなう環境調査に入ったコンサル会社の人で，2012年８月20日のことです．その情報は，天然記念物を管轄する三重県教育委員会に伝えられ，教育委員会から私のところにもはなしがあり，24日に発見地点周辺の調査を行うことになりました．

写真２　隠れ家のコンクリート塊．周囲にトラップを設置し，必ず捕獲できると思っていたが・・・

オオサンショウウオは夜行性ですので，調査は暗くなってから行いますが，せっかくの機会ですので加太川流域でトラップ調査も行うことにしました．24日の日中に，鈴鹿川合流部（関町新所）から上流，不動滝林道入り口付近（加太北在家）までの約10km区間の堰堤下11地点に各２個のトラップを沈めました(写真４)．なお，トラップはカニ篭とアナゴ篭を用い，餌に生イワシやアジなどをいれました．夜間調査は８時頃から県教育委員会の中野環さんも合流して開始し，コンクリートのかたまりの下でオオサンショウウオを確認することができました．つかもうとすると奥に

写真３　隠れ家内のオオサンショウウオ．
2012年８月20日撮影，三重県鈴鹿建設事務所提供

引っ込んでしまい，捕獲することはできませんでしたので，このまわりにも４個のトラップを設置しました（写真２）．また，上下流１kmほどの区間を歩いてみましたが，ほかのオオサンショウウオを発見することはできませんでした．

翌25日の朝からトラップの回収を行いましたが，残念ながらオオサンショウウオは捕獲できませんでした(写真５)．隠れ家のまわりに設置したトラップでも捕獲できなかったのは，少々意外でした．これまでの経験では，オオサンショウウオはトラップをほとんど警戒することなく，餌に引き寄せられてきました．再度，９月13日にも隠れ家付近のトラップ設置と夜間調査を行いましたが捕獲できず，また，隠れ家内のオオサンショウウオも姿を消していました．結局，捕獲することができませんでしたので確認個体の詳細は不明ですが，写真をみると顔の横に葉っぱが写っており，その大きさと比べるとそれほど大きな個体ではなさそうです（コンサルの調査員は50～60cmと推定）．

写真４　加太川最下流側のトラップ設置地点

写真５　オオサンショウウオは入らなかったが，モクズガニが捕獲できた

これまでに，鈴鹿川水系で発見されたオオサンショウウオの確実な記録は３例あり，それぞれ全長は73cm(1995年)，68cm（1999年），76cm（2002年）で，後者の２例は同一個体とされています．また，最初の個体は日本サンショウウオセンターに引き取られましたので，2002年時点で全長76cmの個体が加太川には生息している可能性がありますが，今回確認したのは大きさや頭部の模様からみて別個体であることは間違いなさそうです．

加太川は，伊勢湾側河川のなかでは比較的多くのオオサンショウウオが確認されており，伊賀地域とも隣接していますので，もっとも自然分布の可能性が高い河川です．しかしながら，生息地と距離的に近いと言うことは，持ち込みやすいとも言えるわけで，はなしは堂々巡りになってしまいます．もし，誰かが持ち込んだ個体だとしたら，天然記念物指定後の違法行為である可能性があります．オオサンショウウオが特別天然記念物に指定されてから60年あまりになりますので，それ以前に，つまり法に触れることなく放されたのであるならば60歳以上になりますが，今回の個体はあまりにも小さすぎます．加太川では1999年に68cmであった個体が2002年には76cmになっていますので，３年で８cm大きくなっています．この伸びはオオサンショウウオの成長としては極めて良好ですので，加太川の餌条件は悪くないのでしょう．このような環境下において，60年で50～60cmにしか成長しないというのはあり得ないことですので，最近になって，つまり違法に持ち込まれたか，ひょっとしたら加太川で繁殖していることになります．

三重県のオオサンショウウオはマイクロチップによる個体識別が進められており，これまでに約3000個体が登録されています．今回確認した個体についても，捕獲してチップの読み取りができれば産地の特定ができたのですが，捕獲できなければどうしようもありません．この個体の捕獲や繁殖の可能性も含めて，加太川では今後も引き続いて調査を行っていく必要があります．

参考文献

清水善吉．2002．関町で２度も発見されたオオサンショウウオ．自然誌だより，(54)，4-5.
清水善吉・松月茂明．関町・鈴鹿川中流で確認されたオオサンショウウオの顛末．三重自然誌，(2)，67-69.

〈しみず　ぜんきち：松阪市日丘町1386-17〉

オリジナル・オオサンショウウオグッズ

表紙に中野環さんが考案したオオサンショウウオの栞が紹介されていますが，趣があっていいですね．それに，制作費もかかりませんのでイベントでの工作教室や参加者への記念品にぴったりです．いや，意外と退職後の収入確保をねらっているのかもしれませんが．

私も，これまでにいくつかオオサンショウウオのグッズをつくっていますので紹介します．もっとも，私の場合は自分で制作したわけではなく，ちょっとだけアイデアを出してつくってもらったものですので，偉そうには言えません．

①は胸に図鑑的解説をプリントしたＴシャツ．絶対の自信作でしたが，「部屋着にしかならない」というシビアに声も．②はハジッコリュック，③はハジッコ缶バッチ，どちらも試作品で私の妻制作．④はハジッコ皿，鮎をのせるとサラに引き立ちます．オオサンショウウオの会三重大会で販売し好評・完売，玉城わかば学園の先生作．

※「ハジッコ」はオオサンショウウオの伊賀地域の古名

〈清水善吉：事務局〉

事務局から

○鈴鹿青少年の森湿地整備作業の参加者募集

湿地の草刈を行いシラタマホシクサやモウセンゴケなどの湿地植物を保全します．下の日時に実施しますので，参加していただける方は事務局までお知らせ下さい．

日時：１月22日㈬　13時～16時　　持ち物：長靴，軍手

○会報の原稿募集

会報「自然誌だより冬号」は３月発行予定です．観察記録や会への意見・要望，自然保護活動などについて，ふるってご投稿ください．

○2014年会費（前納制）の納入をお願いします．退会される方はご一報を!!

編　集　後　記

今年の秋は寒暖の差が激しく，そのせいか紅葉がとても鮮やかです．本号は原稿の集まりが悪く，私の駄文で誌面の半分を埋めることになってしまった編集の不手際をお詫びいたします．前号に同封した「いせきび」のように新会誌も創刊され，また来春には新県立博物館も開館しますので，ニュースレターや研究紀要なども発刊され，友の会も発足するはずです．新たな動きを受けて，四半世紀続いた本誌・本会の役割を再検討する時期にきています（善）．

自然誌だより98号

発 行 日　2013年12月20日
事 務 局　〒515-0835 松阪市日丘町1386－17
清水善吉方　三重自然誌の会
http://www.zb.ztv.ne.jp/mie-shizenshi

発 行 者　三重自然誌の会
郵便振替口座　00800-5-17842　三重自然誌の会
年 会 費　1,500円（個人）/2,000円（家族）
e-mail:mie-shizenshi@zb.ztv.ne.jp